

本日の聖書箇所は、イエス様の復活の物語になります。復活とは、死からの甦りです。1度消えた命が再び回復することを言います。それは、冬には枯れて何も無い、死に覆われていた土地が、春を迎えると美しい花々で満たされ、鳥たちが飛びかうような、命溢れる大自然によみがえる姿を私たちに思わせるかもしれません。ルカによる福音書では、イエス様によって死者から甦らせられた2つの奇跡を語っています。1つは、ナイン村の寡婦の息子の甦りです。母親は、大事な1人息子を亡くした悲しみ、そしてこれからの将来一人寂しく生きていかなければならないことを、辛く嘆き悲しんでいたのです。イエス様は、その母親を憐れんで近づき、息子が納棺されている棺に手を触れ、息子を死者から甦らせたのです。もう1つは、ヤイロの娘の甦りです。亡くなった会堂長ヤイロの娘の手をイエス様を取り、「娘よ、起きなさい」と呼びかけると、その娘は、その霊が戻ってきて立ち上がったのです。この2つの甦りの奇跡でイエス様は、父なる神様より命そして死をも支配する力、死者を甦らせる力を持ったお方であることを示されました。今日の箇所で示されるイエス様の復活の物語は、イエス様によって甦らせられた2つの奇跡とは異なります。イエス様は十字架の死を遂げ、死んでお墓に葬られ、三日目に死人のうちから父なる神様の力によって甦らせられたのです。わたしたちは、なかなかイエス様のその復活を信じることはできません。なぜなら、わたしたちは、これまでに自分で見て、触って、聞いて得た知識や経験で物事を判断、理解し、そのことに信頼を置いているからです。大自然に花々を見て、花に触って香りを楽しみ、鳥のさえずりを聞いて、新しい命の誕生を知ることができるのです。しかし復活したイエス様は見えません。そして、一緒に食事をしたり、おしゃべりをしたり、歌を歌ったり、握手を交わしたりできないから、なかなか信じることができないのです。

・復活の事実を告げる

ルカによる福音書24章は、イエス様の復活を3つの物語を通して語っています。最初の物語は、空の墓に訪れた女たちに現われた2人の御使いの話になります。十字架に架けられ死なれたイエス様は、亜麻布に包まれて墓の中に納められました。死んだ人を布で包んでそのまま埋葬されたのです。日本では火葬によって骨だけを埋葬するのとは異なります。婦人たちは、イエス様が死なれてから三日目の朝に、イエス様のご遺体からでる腐敗臭を抑えるために香料を持って訪れたのです。イエス様のご遺体は、当然墓にあると確信して訪れたのです。しかし、ありませんでした。婦人たちは、イエス様はどこに行ったのか、誰かが持っていったのか、いったいどうなったのかと途方に暮れていたのです。その時、2人の神のみ使いが婦人たちに現れ、「復活されたのだ」と言います。さらにみ使いたちは、「人の子は、必ず罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている」と言います。そう言われて婦人たちは、ガリラヤにおられた頃のイエス様のそのお言葉を思い出したのです。婦人たちは、イエス様のお言葉を思い出すことによって、イエス様は復活したのだと分かったのです。そのことを早速、ペテロら弟子たちに話しましたが、信じませんでした。このことは、ユダヤの男性中心社会の影響、その時代の常識によって、女性たちを嘲っていたことが背景にあるでしょう。

次の物語では、2人の弟子たちにイエス様が現れたのです。2人の弟子は、イエス様が死なれてしまったので、悲しみ暗い顔をして、自分達が住むエマオ村へ戻る道をととぼとぼと歩きながら、婦人たちが体験した出来事を話していました。その時、イエス様に声をかけられましたが、2人は全く気づきませんでした。なぜなら、目が遮られていたからです。「遮られていた」は原文では、「何かの力によって支配され続けている」を意味します。その力とは、イエス様であると気づかせないように、神様から離そうとする力、悪魔の力であります。イエス様が十字架の死を遂げたこと、そして婦人たちの体験した出来事を、イエス様に話すと、イエス様はモーセと全ての預言書からはじめて、聖書全体にわたって、ご自分の話をされたのでした。2人の弟子たちに、「メシアは苦しみを受けて、必ず栄光に入る」と必ず神様のみ心は成し遂げられるということ語られたのです。そしてイエス様は、そのまま2人から離れて立ち去って行くこともできたはずなのに、一緒に泊まりましょうという誘いを受けて留まり、共に食事をしたのです。イエス様は食事の祈りをし、パンを裂き、その裂いたパンをお渡しになったその瞬間、2人の遮られていた目が開かれて、自分達の前におられる方はイエス様だとわかったのです。イエス様と一緒に食事をする行為によって、目を遮っていた悪魔の力から解放されて、復活のイエス様だと分かったのです。そして、道すがらイエス様から聞いた聖書全体のお話、心が燃えていたことにも気付かされたのです。しかし、イエス様はすぐに消えてしまったのです。2人は、復活したイエス様に出会ったことに感激して、すぐにエマオ村へ帰る道から向きを180度変えて、仲間たちがいるエルサレムに戻ったのでした。

この2つの復活物語は、私たちに、イエス様の復活は、自分の力や、自分達の住む社会の一般的な常識では信じることはできないということを明らかにしています。婦人たちは、神様のみ使いの言葉によって、イエス様のお言葉を思い出し、また2人の弟子たちは、イエス様と食事することによって目を開かせていただきました。そのことによって、イエス様の復活は事実であると分かることができたのです。しかし、かれらは、その事実を知ることは出来ましたが、イエス様の復活を真に信じることは出来なかったと思うのです。なぜなら、ガリラヤ地方をめぐる宣教の旅と一緒に過ごし、食事をしたり、祈ったりしていた時のように、自分達の前にとどまっておられず、どこかへ消えてしまったからです。そのようにどうしてもご自身の復活を信じられない弟子たちにイエス様は再び現れるのです。

・体の復活

婦人たちからは、埋葬されているはずのお墓が空になっていたと聞き、2人の弟子たちからもエマオ村へ帰る途中にイエス様と出会った体験を聞いたけれども、イエス様の死を悲しんでいた11人の弟子とその仲間たちは、何が起きているのか分からず混乱した思いであったでしょう。しかも、イエス様だとわかった瞬間に、2人の弟子たちの目の前から姿が消えてしまったのです。本当に復活し、死から甦ったのであろうか、ではどこにいつてしまわれたのかと戸惑っていたに違いありません。すると、イエス様が突然、弟子たちの真ん中に現れたのです。そして「あなたがたに平和があるように」と言われたのです。これはユダヤ人たちが普段から交わされる挨拶である「シャーローム」と同じ意味になります。ユダヤ人たちは、私たちが、「おはよう」、「お元気ですか」と挨拶するように「あなた、あなたがたに平和がありますように」と言います。イエス様は、弟子たちに神様との良好な関係、平和がありますようにと祝福されたのです。しかし、突然イエス様が目の前に

現れることによって、弟子たちは、恐れのために、体がびくびくと震えていたのです。亡霊を見ているのだと思ったのです。婦人たち、そして2人の仲間たちからイエス様のお話を聞いていましたが、実際に目の前におられる方が、これまで一緒に過ごしていたイエス様だとは信じられなかったのです。そのようにイエス様の復活を信じられない弟子たちにイエス様は、ご自分の手と足をお見せになりました。そして「よく見て、触りなさい」と言われたのです。イエス様は、弟子たち、そして私たちが、信じていることができるためには、見て、触って実際に体験することが必要であることをご存知であられたのです。弟子たちは、イエス様の手と足を見て、触り、そこには十字架に架けられた時に、打ち付けられた釘によってできた、傷跡があることに気づいたのです。あの十字架の上で死なれたイエス様を思い出したのです。そしてそのイエス様が、甦って今ここにいらっしゃるのだと喜んだのです。しかし、それでもまだ信じられず、確信が持てず弟子たちは混乱していました。イエス様が復活して真の体で目の前におられることの喜び、十字架の死を遂げたにもかかわらず、このようにして目の前におられることへの驚き、そしてそのことをいまだに信じられない弟子たちの姿があります。さらに、イエス様はそのように不思議に思っている弟子たちの様子を見て、「何か食べ物がありますか」と尋ねます。弟子から渡された焼き魚を手にとって、弟子たちの前で口に入れ、むしゃむしゃと食べられたのです。魚は、漁師であったペテロ、ゼベダイの子ヤコブとヨハネたちの主食であったでしょう。彼らは、魚を取って、食べて生活していたのです。そして、イエス様との宣教旅行では生活を共にし、5000人の空腹をも満たした、パンと魚の奇跡を体験したのです。イエス様の十字架の死後、仲間たちは集まって、焼き魚を食べながら、それらのことを思い出し、イエス様の死を悲しみ、偲んでいたことでしょう。その思い出がたくさん詰まった焼き魚をイエス様は目の前で食べられたのです。イエス様は、亡霊が現れたと恐れ、びくびくしていた弟子たちに、手と足をお見せになり、焼き魚を食べて見せられたのです。そのことは、イエス様は、亡霊のような肉も骨もないものではなく、バーチャルリアリティーを作り出す3D画像のような、本当の実物ではないけれども、実際におられるような感覚にさせられているようなものでもなくて、現実には実際の体をもって十字架の死から甦られたことを、弟子たちにお示しになられたのです。イエス様の復活とは、真に体が復活することなのです。イエス様の体の復活は、亡霊のように私たちに恐れさせ、びくびくさせるのではなく、必ず迎える最後の敵である死への不安や恐れから私たちに解放し、救いの完成の日には、肉と骨、魂すべてがイエス様のように真の体を持って復活するという希望を与えてくださっているのです。私たち信仰者はすでにそのことを体験しています。洗礼によってであります。弟子たちのように神様によってイエス様の復活を信じるものとさせられています。これまでの神様から離れて死んでいた者が、洗礼によって神様の力をいただき、神様と共に生きる新しい命をいただいているのです。

・心の目が開かれて

さらにイエス様は、「モーセの律法、預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ず実現する。」と言われます。エマオ村へ帰る途中の2人の弟子たちに話なされた、モーセと全ての預言書を繰り返し強調されただけでなく、詩編を加えさらに詳しく語られたのです。それらの事柄は必ず実現するというところこそ、ガリラヤ地方での宣教旅行中に、イエス様が弟子たちに話されたことでした。それらの事柄は、今の私たちが与えられている旧約聖書に書かれてあります。それは、私たち人間

全てを神様のもとへと戻る者とさせ、神様と共に生きる者へとする神様のみ心であります。そのみ心は必ず成就し、実現するのです。しかし、目を遮られていた2人の弟子たちと同じように、神様から離そうとする力、悪魔の力によって心の目が閉ざされていたのです。イエス様は、ご自分の復活の真の意味を理解させるために、その弟子たちの悪魔によって閉ざされていた心の目を開かれたのです。そのことによって、弟子たちは、神様のみ心を理解する者とされたのです。今日の箇所では、これまでのイエス様との宣教旅行で体験した、病人への癒し、蘇りの奇跡や、力強い行いや教えではなくて、イエス様の十字架の苦しみによる死と復活にこそ、神のみ心の中心があるのだと言います。私たちは、神様ではなく、この地上の富であるお金や自分の知識、経験のみを心の拠り所として生きていました。そのことによって不安や苦しみ、思い悩み、神様から遠く離れて生きていた者でした。そのような私たちを、神様はイエス様の苦しみである十字架の死と復活によって、私たちをご自分のもとに立ち返らせ、神様と共に生きはじめる者としてくださいました。そのことによって私たちに、平和を与えてくださる神様を心の拠り所として、安心して生きることができるのです。そして神様の御心が果たされる日には、永遠に神様と共に生きることへの希望を与えられているのです。

・神様のみ心の実現へ

イエス様は、弟子たちに「あなたがたはこれらのことの証人となる。」と言われます。これらのこととは、イエス様の十字架の死、そして3日目にその死から復活されたということです。まさに弟子たちは、それらのことの証人です。イエス様の十字架の死と復活の出来事を見て、触って、聞いて得た過去の体験だけでなく、その出来事が神様のみ心であり、復活のイエス様が今も共にあるという救いに生きる証人です。証人としての弟子たちが、イエス様の復活によって与えられた、神様と共にある平和を、世界に宣べ伝えていくということが必ず実現すると言われたのです。しかし、そのことは弟子たちの力では成し遂げられません。その力を与えてくださるのは神様であります。神様から力をいただいた、証人である弟子たちによって、エルサレムから世界へと、復活のイエス様を宣べ伝えることが始まるのです。そのことは、使徒言行録2章で語られていますように、ペンテコステの日にエルサレムで実現するのです。先日、黒田先生と祈禱会で共に平和を祈りました。その時に聞きましたみ言葉、イザヤ書2章3節「主の教えはシオンから/み言葉はエルサレムから出る。」にありますように、主の教えとみ言葉はエルサレムから、全世界へと宣べ伝えられたのです。復活されたイエス様は、エルサレムに集っていた弟子たちの真ん中に現れて、「あなたがたに平和があるように」言われました。復活のイエス様は、神様と共にある平和を与えられるのです。それから約2000年かけて私たちにもその復活のイエス様の証人が訪れました。神様との平和を与えられた私たち信仰者は、その証人とされているのです。そして、私たちは神様の力を受け、復活のイエス様を宣べ伝えて、神様の御心を実現していく器として、神様に用いられているのです。